

助成事業完了報告書

宛先:日本財団 会長 様

報告日付:2010年3月31日

事業ID:2006536903

事業名:海の環境学習を継続していくための指導者育成事業

団体名:三河湾環境チャレンジ実行委員会

代表者名:委員長 大塚耕司

TEL:0533 - 66 - 1162

FAX:0533 - 66 - 1190

事業完了日:2010年 3月31日

事業費総額 979,584 円

助成金額 800,000 円

事業内容:(「何を、いつ、どこで、どのように」実施したのかを具体的に記入して下さい。)

1. 三河湾環境チャレンジ実行委員会開催

(1) 開催日 : 2009年5月19日、2009年8月24日

(2) 場 所 : 蒲郡市役所

(3) 参加者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員(別添名簿参照)

(4) 内 容 : 各小学校の思いや昨年度の実績を踏まえた今年度の方向性の検討(最重要:総合学習の一環として、「地域」の海を学ぶ。児童の五感で興味を引く形をしていく)。
活動の検証(指導者の数や学習方法など)。

2. 小学校における海の環境学習の支援

(1) 実施日 : 2009年5月8日、6月9日
2009年5月11日、6月23日
2009年6月8日、7月6日
2009年6月10日、7月7日
2009年6月24日、8月5日

(2) 場 所 : 大塚小学校及び大塚海浜緑地及び大塚海岸
西浦小学校及びくじ港

竹島小学校及び竹島海岸
三谷小学校および三谷海岸
蒲郡西部小学校および竹島海岸

- (3) 参加者 : 大塚小学校5年生66名 教員3名
西浦小学校4年生51名 教員5名
竹島小学校5年生46名 教員4名
三谷小学校5年生49名 教員5名
蒲郡西部小学校5・6年生38名 教員3名

- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ

愛知県水産試験場職員、竹島水族館学芸員・飼育員、生命の海科学館職員、三谷水産高校職員及び生徒、NPOシーブリーズ三河湾、大阪府立大学大学院教授、大阪市立大学講師、名古屋産業大学講師、愛知教育大学準教授、蒲郡海洋開発株式会社職員、総合科学株式会社職員、国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所職員、蒲郡市環境課職員、蒲郡市生涯学習課職員、蒲郡市企画広報課職員

- (5) 内 容 : 1. 座学「海にはどんなやつがいるの？」

…海の生き物について解説し、フィールドワークでの注意点を知らせる。

2. 座学「海に関するクイズ」

…海全般に関するクイズを行い、海に関する視野を広げる。

3. フィールドワーク1回目「生物に触れる」…生物採取を通して海に関心を持ってもらうことを目的とした。採取した生物で「マイ図鑑」を作成。

4. フィールドワーク2回目「興味をより深く」…1回目の活動で、海に関する興味を持ったものをより深く探ってみた。赤潮、貝、水質・ごみ、カニ、イソギンチャク・エビ、魚の6班に分かれて、生物を採取したり、パックテストや透視度計で水質を見たり、アサリの浄化作用を見たりした。水質班は、国土交通省及び蒲郡海洋開発の船を借りて、船上から海水を採水した。

3. 海の環境学習会の開催(指導者育成事業)

- (1) 実施日 : 2009年6月21日(日)

- (2) 場 所 : 蒲郡市南部市民センターおよび竹島海岸

- (3) 参加者 : 一般公募市民 9名

- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ

竹島水族館学芸員・飼育員、生命の海科学館職員、NPOシーブリーズ三河湾、総合科学株式会社職員、蒲郡市企画広報課職員

- (5) 内 容 : 講義: 海の基礎知識 海の環境学習を行う際の安全対策 海の生き物基礎知識、フィールドワーク:竹島海岸

環境・安全・生き物、それぞれの専門家から講義を行い、知識を深めた上で、実地研修を行った。

4. 海の環境学習会の開催(市民親子向け)

- (1) 実施日 : 2009年8月8日
- (2) 場 所 : ホテル竹島、愛知県水産試験場および竹島海岸
- (3) 参加者 : 一般公募市民の親子26組73人
- (4) 指導者 : 三河湾環境チャレンジ実行委員およびスタッフ
愛知県水産試験場職員、竹島水族館学芸員・飼育員、生命の海科学館職員、
三谷水産高校職員及び生徒、NPOシーブリーズ三河湾、大阪府立大学大学院
学生、大阪市立大学講師、名古屋産業大学講師、愛知教育大学準教授、総合
科学株式会社職員、蒲郡市企画広報課職員
- (5) 内 容 : 午前中に座学「考えてみよう、わたしたちの三河湾」「竹島海岸・干潟の生き物」
とフィールドでの生物採取。午後から、その生物を持って、水産試験場へ行き、
マイ図鑑の作成。また、人工潮汐装置や貝の浄化実験など水産試験場の施設
見学。

事業目標の達成状況:(目標の達成状況、事業成果、成功/失敗の要因を自己評価して下さい。)

小学校における海の環境学習支援について、新規に国土交通省中部地方整備局などの協力を得ることができ、活動の幅が広がってきている。

小規模校の蒲郡西部小学校については、5・6年生が参加し、毎年継続する中で、下の学年へ伝えていく活動が定着していくと考えられる。

指導者育成ための「海の環境学習サポーター研修」を行ったが、参加者が少なく残念であった。講義は内容の濃いものであり、フィールドワークも熱心に行われ、当初予定よりも1時間オーバーしたが、参加者の満足度は高かった。興味・関心のある人のところへうまく情報提供するための仕組みを検討する必要がある。

市民向けの環境学習会においては、愛知県水産試験場の公開日と合わせて開催し、講義・フィールド学習・実験・観察などを行い、親子で1日海に関心を深めていただけた。

NPOへの活動主体の移行について検討したが、海の活動団体は限られており、財政的な基盤に乏しく、小学校との連携で実施するにあたっては、人的支援も含めて市のかかわりが必要となると考えられる。

事業成果物:(作成した報告書・印刷物・ビデオなどの名称、部数を記入して下さい。)

実行委員会の開催記録

海の環境学習支援の記録

・タイムスケジュール ・活動アルバム(CD) ・活動動画(CD)

海の環境学習会の記録

・新聞記事 ・活動アルバム(CD) ・アンケート結果

